

中学歴史プリント（過去問類似）

平安時代

名前

得点

/8

問1 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。 （2016年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。 | 2. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。 | 3. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。 | 4. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。 |
|---|--|---|--|

問2 桓武天皇が、それまでの都であった平城京から離れ、長岡京や平安京へと遷都を繰り返した政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2019年 和歌山公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 平城京で強大になった仏教勢力の影響を断ち切り、天皇中心の政治を立て直すため | 2. 大陸との交易を活発にするため、瀬戸内海に面した大型の港を建設し都とするため | 3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するための軍事拠点として、より北方に位置する土地が必要だったため | 4. 平城京において藤原氏の権力が弱まり、新しい有力貴族が自身の拠点に都を移そうとしたため |
|--|--|--|---|

問3 日本列島の東北地方（現在の岩手県付近）に位置し、2011年に世界文化遺産に登録された歴史的遺産があります。平安時代後期、前九年合戦や後三年合戦といった戦乱で亡くなった人々を供養するために奥州藤原氏が建立した、内部が金箔で装飾された阿弥陀堂（金色堂）を含む寺院群を何といいますか。 （2017年 東京都公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------|---------|--------|----------|
| 1. 平泉（中尊寺金色堂） | 2. 厳島神社 | 3. 法隆寺 | 4. 日光の社寺 |
|---------------|---------|--------|----------|

問4 12世紀後半に、武士として初めて太政大臣となった平清盛が、兵庫の港（大輪田泊）を修築して積極的に交流を行った中国の王朝はどれですか。 （2018年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 唐 | 2. 宋 | 3. 元 | 4. 明 |
|------|------|------|------|

問5 平安時代に藤原道長が全盛期を築いた「摂関政治」において、藤原氏が政治の実権を握り続けることができた仕組みとして、最も適切なものはどれですか。 （2020年 長野県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として政治を補佐する仕組み | 2. 地方の武士を都に集めて軍事力を強化し、天皇を武力で威圧することで、無理やり政治の全権を委譲させる仕組み | 3. 天皇が位を譲って上皇となったあとも、政治の窓口である「院」において実権を握り続け、藤原氏を排除する仕組み | 4. 家柄に関係なく、試験によって優秀な人材を官僚として採用し、藤原氏の配下として政府の要職に配置する仕組み |
|--|--|---|--|

問6 平安時代末期の政治体制の変化について説明した次の文章のうち、白河上皇が「院政」を開始した主な目的や背景として最も適切なものはどれですか。 （2024年 岐阜公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|----------------------------------|
| 1. 自分の子孫に天皇の位を確実に継がせ、藤原氏などの貴族による介入を防ぐため | 2. 武士の不満を解消するために、有力な武士を重用して新しい軍事政権を作るため | 3. 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化をさらに発展させるための拠点とするため | 4. 律令制度を再建し、班田収授法を徹底して税収を安定させるため |
|---|---|---|----------------------------------|

問7 平安時代初期に最澄によって開かれた仏教について、その後の歴史に与えた影響や特徴を説明した文として正しいものはどれですか。 （2024年 愛媛公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。 | 2. 最澄は、都から離れた山奥で修行するのではなく、東大寺などの南都六宗の勢力と協力して政治を支えた。 | 3. 最澄は、遣唐使として空海と同じ船で唐に渡り、帰国後は空海とともに真言宗を広めることに努めた。 | 4. 最澄が開いた天台宗は、貴族の間に深く浸透し、後に法然や親鸞が浄土真宗を開く際の直接的な教義となった。 |
|---|---|---|---|

問8 七百九十四年に実施された平安京への遷都と、その時期に進められた政治改革の背景について説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。 （2023年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 奈良の寺院勢力などの宗教勢力が政治に介入することを防ぎ、律令制に基づいた天皇の権威を回復しようとした。 | 2. 大化の改新によって蘇我氏の影響力を排除し、唐の律令制度を本格的に導入して中央集権体制を確立しようとした。 | 3. 全国に国分寺や国分尼寺を建立することで、仏教の力によって国内の政情不安や疫病を鎮めようとした。 | 4. 壬申の乱という大規模な内乱を経て即位し、新しい都で天皇の絶対的な権力を確立しようとした。 |
|--|---|--|---|